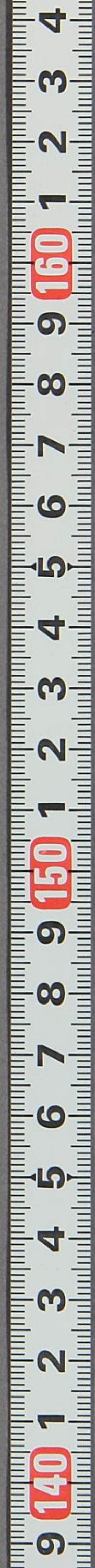


八代集抄

新古今意四八

四十八

特別
イ 4
3163
104(48)





甲将の侍りし時

よひくもも子を衣に
よひくもも子を衣に
よひくもも子を衣に
よひくもも子を衣に
よひくもも子を衣に
よひくもも子を衣に
よひくもも子を衣に
よひくもも子を衣に
よひくもも子を衣に
よひくもも子を衣に

新古今和歌集卷第十四

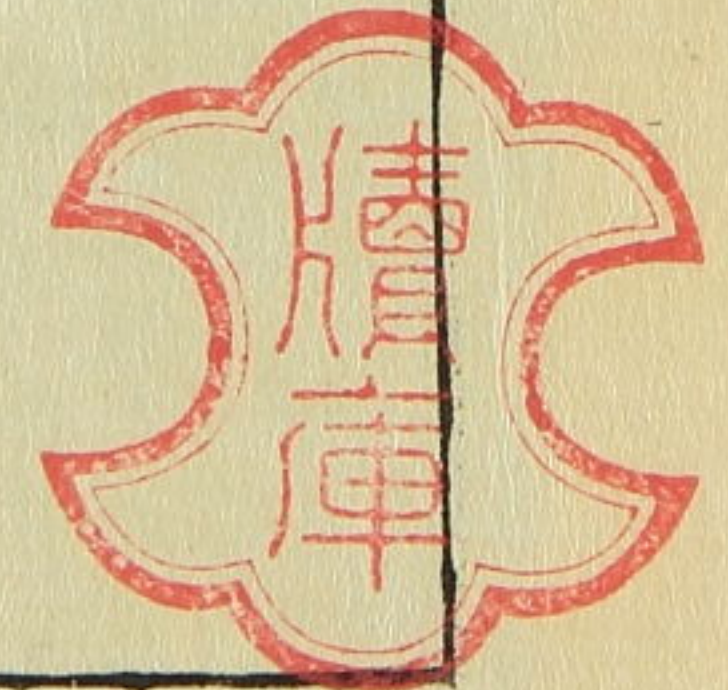
三十一

甲将の侍りし時

清慎公

よひくもも子を衣に
よひくもも子を衣に
よひくもも子を衣に
よひくもも子を衣に
よひくもも子を衣に
よひくもも子を衣に
よひくもも子を衣に
よひくもも子を衣に
よひくもも子を衣に
よひくもも子を衣に

大納言回經男延喜六年六月左将
少将滋幹



こころもさびしく
 うねるはちまたに
 ぬきぬきとくさ
 ちかやうの
 こころもさびしく
 入るまきの
 ちかやうの
 さびしく
 すれに
 田を

ひねねを
 伊勢
 大將道綱母
 中宮皇子九條元大將母
 天曆元年
 秋風の

あはれ
 こころもさびしく
 ちかやうの
 さびしく
 すれに
 田を

あはれ
 こころもさびしく
 ちかやうの
 さびしく
 すれに
 田を

野一方茂芽らね
あはれなるを
あはれなるを
あはれなるを
あはれなるを
あはれなるを
あはれなるを
あはれなるを
あはれなるを
あはれなるを

年あまのあはれなるを
あはれなるを
あはれなるを
あはれなるを
あはれなるを
あはれなるを
あはれなるを
あはれなるを
あはれなるを
あはれなるを

あはれなるを
あはれなるを
あはれなるを
あはれなるを
あはれなるを
あはれなるを
あはれなるを
あはれなるを
あはれなるを
あはれなるを

あはれなるを
あはれなるを
あはれなるを
あはれなるを
あはれなるを
あはれなるを
あはれなるを
あはれなるを
あはれなるを
あはれなるを

梅壺生女
梅壺生女
梅壺生女
梅壺生女
梅壺生女
梅壺生女
梅壺生女
梅壺生女
梅壺生女
梅壺生女

梅壺生女
梅壺生女
梅壺生女
梅壺生女
梅壺生女
梅壺生女
梅壺生女
梅壺生女
梅壺生女
梅壺生女

まゝ乃りつらとて此の
草花の世に生るる
也つらとて此の世に
こま柳の心寂れつ
とよとせむらん花
あゆの世に生るる
の心寂れさせむらん
あを柳乃りつらと
いふらんこま柳の
まゝとて此の世に
こま柳の心寂れつ
とよとせむらん花
あゆの世に生るる
の心寂れさせむらん
あを柳乃りつらと
いふらんこま柳の

後朱雀院御歌
まゝ乃りつらとて此の
こま柳の心寂れつ
とよとせむらん花
あゆの世に生るる
の心寂れさせむらん
あを柳乃りつらと
いふらんこま柳の
まゝとて此の世に
こま柳の心寂れつ
とよとせむらん花
あゆの世に生るる
の心寂れさせむらん
あを柳乃りつらと
いふらんこま柳の
まゝとて此の世に
こま柳の心寂れつ
とよとせむらん花
あゆの世に生るる
の心寂れさせむらん
あを柳乃りつらと
いふらんこま柳の

女侍生子

こま柳の心寂れつ
とよとせむらん花
あゆの世に生るる
の心寂れさせむらん
あを柳乃りつらと
いふらんこま柳の
まゝとて此の世に
こま柳の心寂れつ
とよとせむらん花
あゆの世に生るる
の心寂れさせむらん
あを柳乃りつらと
いふらんこま柳の

あを柳乃りつらと
いふらんこま柳の
まゝとて此の世に
こま柳の心寂れつ
とよとせむらん花
あゆの世に生るる
の心寂れさせむらん
あを柳乃りつらと
いふらんこま柳の
まゝとて此の世に
こま柳の心寂れつ
とよとせむらん花
あゆの世に生るる
の心寂れさせむらん
あを柳乃りつらと
いふらんこま柳の

實言御歌

中野のちかぢいころは
 小島に居る年の三れ
 雅くて好むとて
 中野のちかぢいころは
 小島に居る年の三れ
 雅くて好むとて
 中野のちかぢいころは
 小島に居る年の三れ
 雅くて好むとて

廣陽寺の
 中野のちかぢいころは
 小島に居る年の三れ
 雅くて好むとて

天曆清言

中野のちかぢいころは
 小島に居る年の三れ
 雅くて好むとて
 中野のちかぢいころは
 小島に居る年の三れ
 雅くて好むとて
 中野のちかぢいころは
 小島に居る年の三れ
 雅くて好むとて

伊勢
 中野のちかぢいころは
 小島に居る年の三れ
 雅くて好むとて

中野のちかぢいころは

新垣

白首昇中の
 太上天皇
 御成代の御時
 御成代に御成
 御成代に御成
 御成代に御成
 御成代に御成
 御成代に御成
 御成代に御成

御成代に御成
 御成代に御成
 御成代に御成
 御成代に御成
 御成代に御成
 御成代に御成
 御成代に御成
 御成代に御成

白首昇中
 太上天皇

中のまよと申しは
 三十一日一平の
 なるおとくを
 一二月のりり
 夕のまよと申しは
 一平の
 おのまよと申しは
 昔の月乃比に
 一平の
 我一人のまよと
 申しは
 一平の
 おのまよと申しは
 一平の
 昔の月乃比に
 一平の
 我一人のまよと
 申しは
 一平の
 おのまよと申しは
 一平の

この昔乃月乃比に
 一平の
 昔の月乃比に
 一平の

巻終り

三十一日一平の
 なるおとくを
 一二月のりり
 夕のまよと申しは
 一平の
 おのまよと申しは
 昔の月乃比に
 一平の
 我一人のまよと
 申しは
 一平の
 おのまよと申しは
 一平の
 昔の月乃比に
 一平の
 我一人のまよと
 申しは
 一平の
 おのまよと申しは
 一平の

江原宗圓
 筆
 一平の
 昔の月乃比に
 一平の

此の御書は... 八月十五日... 御書

八月十五日 和年... 御書

わつらふ... 御書

舟の御書... 御書

有家御書

人... 御書

定家御書

松山... 御書

御書

皇太后宮大史後成女

御書

御書

御書

とらり難お入るあたしにせうた 我の侍いふもなきわん人のこと
りいそ津の今なきかたはるのいふもなきわん人のこと
とらり難お入る

越前守家并合より久延を

二葉院讃歌

何とて〜〜〜
若くは難お入るあたしにせうた
りいそ津の今なきかたはるのいふもなきわん人のこと
とらり難お入る

何とて〜〜〜
ありや〜れ庭のま〜露
指談大匠百首并よみ侍り
〜
寂蓮法師
まぬ人なち〜
よもあす〜

あ〜と〜と〜と〜と〜と
とらり難お入るあたしにせうた

越前守家并合より久延を

あ〜と〜と〜と〜と〜と
とらり難お入るあたしにせうた

二葉院讃歌

あ〜と〜と〜と〜と〜と
とらり難お入るあたしにせうた
りいそ津の今なきかたはるのいふもなきわん人のこと
とらり難お入る

あ〜と〜と〜と〜と〜と
とらり難お入るあたしにせうた
りいそ津の今なきかたはるのいふもなきわん人のこと
とらり難お入る

あ〜と〜と〜と〜と〜と

おのひねうらねる音

あまのこころいよ

のSweetのたき

おかしきSweetのたき

と信じてきくわかれ

さかしのこころいよ

らむ音もさかしのこ

はねのこころいよ

りと歌くことばき

余のこころいよ

持政大臣

おのひねうらねる音

あまのこころいよ

有妻期臣

さかしのこころいよ

らむ音もさかしのこ

はねのこころいよ

りと歌くことばき

余のこころいよ

あまのこころいよ

あまのこころいよ

うらむこころいよ

あまのこころいよ

あまのこころいよ

あまのこころいよ

あまのこころいよ

あまのこころいよ

あまのこころいよ

あまのこころいよ

あまのこころいよ

あまのこころいよ

あまのこころいよ

あまのこころいよ

あまのこころいよ

あまのこころいよ

あまのこころいよ

うらむこころいよ

あまのこころいよ

あまのこころいよ

あまのこころいよ

あまのこころいよ

あまのこころいよ

あまのこころいよ

あまのこころいよ

あまのこころいよ

あまのこころいよ

あまのこころいよ

あまのこころいよ

あまのこころいよ

あまのこころいよ

あまのこころいよ

いさよと本舞や〜

の衆乃らう〜

乃衆をん〜

さ〜

野列を社とに〜

大正十年の

寂蓮法師

こぬ人を社乃ら〜

〜

〜

〜

〜

〜

〜

〜

〜

〜

〜

舞乃舞や〜

前大僧正愚圓

〜

〜

〜

〜

〜

〜

被り鳥の〜

大上天皇

〜

〜

〜

〜

ま指うり霞の清きうららかに
ほろりたるはるかに
野にけしきありて

前大僧正慈圓

東城の山に野の清き
ほろりたるはるかに
ま指うり霞の清き
うららかに
ほろりたるはるかに
野にけしきありて

野にけしきありて
ま指うり霞の清き
うららかに
ほろりたるはるかに
ま指うり霞の清き
うららかに
ほろりたるはるかに
野にけしきありて

ま指うり霞の清き
うららかに
ほろりたるはるかに
ま指うり霞の清き
うららかに
ほろりたるはるかに
野にけしきありて

ま指うり霞の清き
うららかに
ほろりたるはるかに
ま指うり霞の清き
うららかに
ほろりたるはるかに
野にけしきありて

小若下茶多き
此よりよきものあり
若の茶の味は
これにまじらば
さしつかへなく
よき物を
こころよく
さしつかへなく
に茶の味は
よきものあり
若の茶の味は
これにまじらば
さしつかへなく
よき物を
こころよく
さしつかへなく
に茶の味は

あなつちの
若の茶の味は
これにまじらば
さしつかへなく
よき物を
こころよく
さしつかへなく
に茶の味は
よきものあり
若の茶の味は
これにまじらば
さしつかへなく
よき物を
こころよく
さしつかへなく
に茶の味は

光孝天皇御宇

いそがせねむる花
とくしつをく
むくしつわりの花
さしつかへなく
よきものを
こころよく
さしつかへなく
に茶の味は
よきものあり
若の茶の味は
これにまじらば
さしつかへなく
よき物を
こころよく
さしつかへなく
に茶の味は

あなつちの
若の茶の味は
これにまじらば
さしつかへなく
よき物を
こころよく
さしつかへなく
に茶の味は
よきものあり
若の茶の味は
これにまじらば
さしつかへなく
よき物を
こころよく
さしつかへなく
に茶の味は

六条右大臣室

あなつちの

いとわすれ給へり

おのれをすておぼしき

はたしてまじりてはきこえぬはかたに思ひまはれし
ねんかたのよしはまじりてはきこえぬはかたに思ひ
入りてはかたのよしはまじりてはきこえぬはかたに思ひ
我身の上をまじりてはきこえぬはかたに思ひ

おのれをすておぼしき 相模

いふかたにまじりてはきこえぬはかたに思ひ
野列とまじりてはきこえぬはかたに思ひ
いとわすれ給へり
おのれをすておぼしき
いとわすれ給へり
おのれをすておぼしき
いとわすれ給へり
おのれをすておぼしき

いとわすれ給へり
おのれをすておぼしき
いとわすれ給へり
おのれをすておぼしき
いとわすれ給へり
おのれをすておぼしき
いとわすれ給へり
おのれをすておぼしき
いとわすれ給へり
おのれをすておぼしき

先考天皇御

謙徳と

下の約半のちまこ
うまくとびつちまこ

まづのちまこを
洞を川よりとり
松の竹筒とまひと
し松遺子の洞あり
まされりやあま乃
松のほくくさあは
るんと海よりあま

おのりいそ社まほの
伊勢物語よみ葉も
あまのこはるま
もあけすくとるま
いそ社まほの
いそ社まほの
いそ社まほの
いそ社まほの

坂上是則 古今集

まづのちまこを
いそ社まほの
よみ人まほ

おのりいそ社まほ
まほのちまこ

いそ社まほの
いそ社まほの
いそ社まほの
いそ社まほの
いそ社まほの
いそ社まほの
いそ社まほの
いそ社まほの

おのりいそ社まほ

いそ社まほの

いそ社まほの

いそ社まほの

いそ社まほの

いそ社まほの

いそ社まほの

いそ社まほの

いそ社まほの

いそ社まほの

いそ社まほの

いそ社まほの

いそ社まほの

いそ社まほの

いそ社まほの

いそ社まほの

いそ社まほの

いそ社まほの

七月篇十月^{ラッソ}終^{ラッソ}入^{ラッソ}我^{ラッソ}床^{ラッソ}下^{ラッソ}こある^{ラッソ}心^{ラッソ}あ^{ラッソ}ま^{ラッソ}ま^{ラッソ}り^{ラッソ}あ^{ラッソ}り^{ラッソ}の^{ラッソ}心^{ラッソ}

あこれちりりいね

そいそあまの

なまのあまの

なまのあまの

なまのあまの

なまのあまの

なまのあまの

千五百番舟合

皇太后宮大史後成

あこれちりりいね

あこれちりりいね

定家朝臣

あこれちりりいね

あこれちりりいね

和舟不致合

皇太后宮大史後成

五七

いしつちりりいね

いしつちりりいね

いしつちりりいね

いしつちりりいね

いしつちりりいね

いしつちりりいね

いしつちりりいね

いしつちりりいね

いしつちりりいね

あこれちりりいね

あこれちりりいね

あこれちりりいね

武子内教

あこれちりりいね

あこれちりりいね

矣

あこれちりりいね

長門の地は... 長門の地は... 長門の地は...

長門の地は... 長門の地は...

長門の地は... 長門の地は... 長門の地は...

長門の地は... 長門の地は... 長門の地は...

長門の地は... 長門の地は... 長門の地は...

長門の地は... 長門の地は... 長門の地は...

崇徳院より百首舟をたのむ可き事

皇太后宮女侍後成

長門の地は... 長門の地は...

長門の地は... 長門の地は...

長門の地は... 長門の地は...

長門の地は... 長門の地は...

長門の地は... 長門の地は... 長門の地は...

長門の地は... 長門の地は...

長門の地は... 長門の地は...

長門の地は... 長門の地は...

長門の地は... 長門の地は...

長門の地は... 長門の地は...

長門の地は... 長門の地は...

長門の地は... 長門の地は...

長門の地は... 長門の地は...

長門の地は... 長門の地は...

長門の地は... 長門の地は...

長門の地は... 長門の地は...

長門の地は... 長門の地は...

長門の地は... 長門の地は...

長門の地は... 長門の地は...

長門の地は... 長門の地は...

長門の地は... 長門の地は...

長門の地は... 長門の地は...

長門の地は... 長門の地は...

長門の地は... 長門の地は...

長門の地は... 長門の地は...

とくしつゝいふまじく
ふかきつゝいふまじく
ふかきつゝいふまじく
ふかきつゝいふまじく
ふかきつゝいふまじく
ふかきつゝいふまじく
ふかきつゝいふまじく
ふかきつゝいふまじく
ふかきつゝいふまじく
ふかきつゝいふまじく

ひりーんたる人々
中らるゝんか
信らるゝ
君しめれる乃
トナリ人
野列を
人々
ふかきつゝいふまじく
ふかきつゝいふまじく
ふかきつゝいふまじく
ふかきつゝいふまじく
ふかきつゝいふまじく
ふかきつゝいふまじく
ふかきつゝいふまじく
ふかきつゝいふまじく
ふかきつゝいふまじく
ふかきつゝいふまじく

ひりーんたる

花さりねくらまのね
花本れ近江甲斐
也花さりねこの花
こつゝん花
ねん乃作葉
なるれといん
年花
書
あん

花さりねくらまのね
花本れ近江甲斐
也花さりねこの花
こつゝん花
ねん乃作葉
なるれといん
年花
書
あん

花原仲文
五位上野女

大納言仲信母

春のゆくへは 春のゆくへは
春のゆくへは 春のゆくへは
春のゆくへは 春のゆくへは

春のゆくへは 春のゆくへは

春のゆくへは 春のゆくへは

春のゆくへは 春のゆくへは

春のゆくへは 春のゆくへは
春のゆくへは 春のゆくへは
春のゆくへは 春のゆくへは

春のゆくへは 春のゆくへは

春のゆくへは 春のゆくへは

春のゆくへは 春のゆくへは

天曆傳記

春のゆくへは 春のゆくへは
春のゆくへは 春のゆくへは
春のゆくへは 春のゆくへは

春のゆくへは 春のゆくへは

春のゆくへは 春のゆくへは

春のゆくへは 春のゆくへは
春のゆくへは 春のゆくへは
春のゆくへは 春のゆくへは

春のゆくへは 春のゆくへは
春のゆくへは 春のゆくへは
春のゆくへは 春のゆくへは

春原雅成

春のゆくへは 春のゆくへは

わが心はさきよりの世に

わが心はさきよりの世に

わが心はさきよりの世に

わが心はさきよりの世に

わが心はさきよりの世に

わが心はさきよりの世に

わが心はさきよりの世に

わが心はさきよりの世に

わが心はさきよりの世に

わが心はさきよりの世に

わが心はさきよりの世に

わが心はさきよりの世に

わが心はさきよりの世に

わが心はさきよりの世に

恭儀

わが心はさきよりの世に

わが心はさきよりの世に

わが心はさきよりの世に

わが心はさきよりの世に

わが心はさきよりの世に

わが心はさきよりの世に

わが心はさきよりの世に

わが心はさきよりの世に

わが心はさきよりの世に

わが心はさきよりの世に

わが心はさきよりの世に

わが心はさきよりの世に

わが心はさきよりの世に

わが心はさきよりの世に

わが心はさきよりの世に

わが心はさきよりの世に

わが心はさきよりの世に

わが心はさきよりの世に

わが心はさきよりの世に

春の野のついでに
 新乃のついでに
 秋乃のついでに
 冬乃のついでに
 春の野のついでに
 新乃のついでに
 秋乃のついでに
 冬乃のついでに
 春の野のついでに
 新乃のついでに
 秋乃のついでに
 冬乃のついでに

春の野のついでに
 新乃のついでに
 秋乃のついでに
 冬乃のついでに
 春の野のついでに
 新乃のついでに
 秋乃のついでに
 冬乃のついでに
 春の野のついでに
 新乃のついでに
 秋乃のついでに
 冬乃のついでに

